

クルアーンの保持 (1/2) :暗記

説明：

ムハンマド（神の慈悲と祝福あれ）の時代におけるクルアーンの暗記と、今日の何百万人ものムスリムたちによる暗記について。

より iiie.net (IslamReligion.com)による編集)

掲載日時 06 Dec 2009 - 編集日時 18 Aug 2013

カテゴリ：[記事](#) > [イスラームの真実性を示す数々の証拠と奇跡](#) > [聖クルアーンの信頼性とその保持](#)

カテゴリ：[記事](#) > [聖クルアーン](#) > [聖クルアーンの信頼性とその保持](#)

ムスリムの聖典であるクルアーンは、天使ガブリエルを介して預言者ムハンマド（神の慈悲と祝福あれ）にアラビア語を介して啓示されました。それは23年間に渡って断続的に下され、時には短い節々で、そして時には長い章の形で啓示されました。 [1](#)



逐語的に“読むもの”または“朗読されるもの”という意味を持つクルアーンは、“アハーディース”（逐語的に“知らせ”、“報告”または“伝承”）と総合的に呼ばれ、クルアーンとは個別に記録 保持されて来た預言者ムハンマドの言行録（スンナ）とは全く別のものです。

預言者は啓示を受けるに当たり、彼の使命であるその内容の伝達に務めました。それは彼の教友たちに対して、彼の聞いた全く同じ内容を、全く同じ順番に繰り返して朗読することでした。これは、彼が自分自身に対して向けられている言葉を含めていることから明らかです。例えば、“クル”（

“ [ムハンマドよ、人々に対して] 言え）などがその好例でしょう。クルアーンの律動的な文体と表現の豊かさは、暗記を容易にさせます。そして神は、それこそがクルアーンの保護と記憶における重要な要素の一つであると述べられています（クルアーン 44：58、54：17 – 22 – 32 – 40）

。特にアラブ社会においては、長い詩文の朗読は彼らにとって誇るべき文化だったので。マイケル ズウェットラーはこう記しています：

“ 文書の使用が殆どなかった古代では、記憶と口頭による伝達が行なわれ、それは現代においては想像のつかない程の高度なレベルにまで発達していたのである。 ” [2](#)

それ故、預言者の共同体における多くの人々により、啓示の大半は容易に記憶されたのです。

預言者は彼の教友たちに対し、啓示された節々を学んで他者に伝達するよう奨励しました。 [3](#)

またクルアーンは崇拜行為として、特に日課礼拝（サラア）の中で定期的に朗読することが求められます。これらの手段によって、彼に下された啓示の内容は大勢によって繰り返し聞

かれ、暗記され、礼拝で朗読されたのです。聖クルアーンはその一字一句において、まると教友たちによって暗記されました。その中にはザイドブンサービト、ウバイブンカアブ、ムアーズブンジャバル、そしてアブーザイドら⁴が含まれています。

またクルアーンの一字一句は単に暗記されただけでなく、その発音に関しても、後に発展したタジュウィード学の発音法と共に保存されています。この学問は、それぞれの文字と単語が文脈上いかに発音されるべきかを極めて明瞭にするものです。私たちは今日においてもあらゆる言語の話者が、まるで預言者の時代に生きていたアラブ人のようにクルアーンを朗読するのを見出すことができます。

更には、クルアーンの章句の配列は預言者によって指導されており、教友たちにも良く知られていました。⁵

また毎年ラマダーン月（ヒジュラ暦9月）には、天使ガブリエルによって、それまでに啓示された全クルアーンが朗読され、預言者はかれのあとに続いて朗読し、教友たちの何人かもそこに同伴していました。⁶

また彼が逝去する前のラマダーン月には、ガブリエルは全クルアーンを二回繰り返して朗読しています。⁷

こうして各章、各節々の配列は教友たちの記憶に補強されて留められたのです。

教友たちは様々な地域や国家に拡散していった際に、その地の人々に教えることが出来るよう、朗読法を携えて行きました。⁸

そうすることにより、広範囲に及ぶ各地の人々が同じ方法でクルアーンを朗読することの維持に成功したのです。

実に、クルアーンの暗記は何世紀にも渡って連なる伝統として、ムスリム世界の学校機関の設立に伴って教えられて来ました。⁹

これらの学校で、生徒たちはクルアーンの暗記をタジュウィードと共に師のもとで学びました。そして彼らの師もまた、その師から師へと辿って行くと、その知識の源を神の預言者にまで遡る、途切れのない相伝の系譜に名を連ねているのです。クルアーン習得の過程は通常3年から6年程かかりました。熟練を収め、朗読における間違いが無いかをチェックされた後、生徒は免許状（イジャーザ）を渡され、朗読法の熟練性と、神の預言者が行なった通りの朗読が可能であることを証明されるのです。



この写真はクルアーン朗誦を習得させた暁に発行される、預言者ムハンマドまでの系譜が明らかにされた一般的な免許状（イジャザ）のもので、これはシャイフ アハマド アッ=ズィーヤにより発行された、クウェート出身の著名な朗誦者であるマシャーリーブン ラシード アル=アフアシーのもの。写真提供：<http://www.alafasy.com>

非ムスリムの東洋学者であるA.T.ウェルチは記しています：

“ムスリムにとってのクルアーンとは、一般的な西洋的価値観による啓典 聖典とは一線を画するものである。圧倒的多数にとっての数世紀にも渡るその主な重要性とは、その口述形式であり、それはムハンマドによって彼の教友たちへおよそ20年にも渡り唱えられたものと同じ元来の形式である 啓示はムハンマドの教友たちの一部によって彼の存命中に暗記され、場合によってはクルアーンの写本からは独立して、または優先され、それ以来は口述の伝統として確立されたのである そして何世紀にも渡り、朗誦専門家（クラー）によって口述の伝統は維持されてきた。つい最近まで、西洋においてクルアーン朗誦はほとんどと言って良い程その価値を認められていなかった。” 10

クルアーンは恐らく宗教的、世俗的にみても、数百万人もの人々によって暗記されている唯一の書でしょう。11 東洋学の先鋭、ケネス クラッグはこう述べています：

“ このクルアーン朗誦の現象は、その原文が数世紀の時を超えて途切れること無く、我々に生きた形でムスリムたちの献身を示してくれている。それ故、それは古物研究

として扱われるべきでなく、また遠い過去の歴史的文書として扱われるべきでもないのだ。すなわちヒフズ（クルアーン暗記）の事実は、時の経過を超えてクルアーンを現在形でムスリムの所有とし、また全世代が共有する価値とし、それをいかなる権威によって格下げされることをも許さないのである。” [12](#)

Endnotes:

[1](#) ムハンマド ハミードゥッラー, Introduction to Islam, ロンドン : MWH Publishers 1979年, 17頁。

[2](#) マイケル ズウェットラー, The Oral Tradition of Classical Arabic Poetry, Ohio State Press, 1978年, 14頁。

[3](#) サヒーフ アル=ブハーリー, 6巻, 546番。

[4](#) サヒーフ アル=ブハーリー, 6巻, 525番。

[5](#) アハマド ヴォン デンフェール, Ulum al-Quran, The Islamic Foundation, 英国, 1983年, 4 1 – 4 2 頁, アーサー ジェフェリー, Materials for the History of the Text of the Quran, Leiden: Brill, 1937年, 31頁。

[6](#) サヒーフ アル=ブハーリー, 6巻, 519番。

[7](#) サヒーフ アル=ブハーリー, 6巻, 518, 520番。

[8](#) イブン ヒシャーム, 預言者伝, カイロ, n.d. 11巻, 199頁。

[9](#) ラビーブ アッサイド, The Recited Koran, モロー バーガー訳, A. ラウーフ, バーナード ワイス, プリンストン : The Darwin Press, 1975年, 59頁。

[10](#) イスラーム百科事典, “ The Quran in Muslim Life and Thought. ”

[11](#) ウィリアム グラム, Beyond the Written Word, イギリス : Cambridge University Press, 1993年, 80頁。

[12](#) ケネス クラッグ, The Mind of the Quran, ロンドン : George Allen & Unwin, 1973年, 26頁。

この記事のウェブアドレス :

<http://www.islamreligion.com/jp/articles/19>

Copyright © 2006-2013 www.IslamReligion.com. All rights reserved.